

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳保持やニーズに対する支援などの理念は誰にでも見られるよう記載・掲載している。	地域密着型サービスの役割を理念へと取り入れていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム会議で理念に触れて確認している。	課題検討する中で取り組みを行ったり、食事提供場面のコミュニケーションの取り組みを行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会やご家族の面会時に理念を伝えている。運営推進会議でも、グループホームでは理念を大切にしている事を話している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	敬老会参加している。町内で開いている三日市、びっくり市に出かけている。又、施設で行なう夏祭りに参加し、地域の人達と話をしたり、一緒に盆踊りをする等交流が出来る。	民家から離れ、近隣所が遠い場所であるため、こちらから近所の方が集まる機会を設けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>随時、全職員で自己評価を行っていきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>運営推進会議参加者の中に地域住民の参加を勧めている。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>グループホームは地域密着型になっているので、市町村には都度情報提供しながら施設の質の向上に取り組んでいる。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護の勉強会を行う予定です。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待行為発見時の対応方法やマニュアル作りして行く。毎月のカンファレンス時に個別ケースごとに虐待の課題を盛くんで行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の契約の際には、重要事項説明書等の書面で説明を行って、理解して頂いている。</p>	<p>全職員も新しく契約された場合本人、御家族には丁寧に説明するようにしている。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。その時々を利用者の不安、意見等は全職員で話し合いを行い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。</p>	<p>利用者の状態を把握し、少しの変化でもすぐに対応し、全職員で話し合いを行っている。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時には御本人の様子の写真を見て頂いている。毎月グループホーム新聞を家族へ送っている。</p>	<p>利用者の暮らしぶりやエピソードなど手紙や写真等でこまめに報告していきたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には手紙や訪問時、家族会議で常に問いかけ、何でも言ってもらえるように職員から問いかけている。出された意見、要望等は会議で話し合っている。</p>	<p>アンケートを作成し、面会時に記入して頂くようにしていきたい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議で職員の意見、要望を聞くと共に、会議時に1回ずつテーマを決めて話し合っている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう利用者の状態やペースに合わせた勤務のローテーションを組んでいる。その都度必要に応じて柔軟に職員配置を考えている。</p>	<p>利用者や家族の要望が聞かれた場合でも、対応出来るようになっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が入った場合はなじみの職員と、利用者の方に新しい職員が入り、活動を通して、馴染みの関係を築いている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修になるべく多くの職員が参加出来るよう配慮している。研修報告会も実施し職員間で情報交換を行っている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修や学習会に参加し、事業所外の人材の意見や経験をケアをに活かし、質の向上に励んでいる。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、気分転換や休憩できる場所を確保したり職員同士の人間関係を把握するよう努めている。</p>		<p>職員同士の食事会や、話し合いの場を設けるようにしていきたい。</p>
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行なっている。職員が向上心を持って働けるよう人事考課等で評価をしている。</p>		<p>毎日の業務においても、問題意識に気づくように指導している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って身心の状態や本人の思いに向き合っている。</p>	<p>入所前に自宅に訪問する等し、情報収集していきたい。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談者には、地域包括支援センターや他事業所のサービスにつなげる等、柔軟な対応を行っている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族やそれまで関わっていた関係者に来てもらうなどして本人に安心感を持ってもらうようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の思いや苦しみ、不安に共感し又、その場面から学ぶことに努めている。</p>	<p>家族の思いを伝えるための方法をさらに検討し実施していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを確認しながら本人を支える為に、相談したり、協力してもらっている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、行事に家族を誘い来訪時はご本人とご家族の橋渡しをし、より良い関係の継続に努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地域に出向いたり、馴染みの知人と交流が出来るように実施している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったりみんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごす場面を作るなど、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となっている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方にも利用者と一緒に遊びに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声を掛け把握に努めている。言葉や表情などからその真意を読み取ったり、確認するようにしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者自身の話す内容や、ご家族、知人等の訪問時など情報を聞き把握に努めている。</p>	<p>訪問以外でも、必要に応じて、電話での情報収集していきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。生活・心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目しその人全体の把握に努めている。</p>	<p>センター方式を取り入れたことにより、利用者一人ひとりに合った生活像の把握に努めていきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。</p>	<p>アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し状態が変化した際は、終了する前であっても検討見直しを行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し評価を実施している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努めている。</p>		<p>利用者の柔軟な支援はもとより近隣の高齢者が状況に応じて、ショートステイや、デイの利用を出来るように、グループホームの多機能性を強化していきたい。</p>
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>他事行所にボランティアが来た時に、グループホーム利用者と交流を図る機会を設けている。</p>		<p>個別のボランティアを募っていきたい。</p>
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>利用者の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用している。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と協力し複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師と関係を築き、職員が相談し状態に変化が見られた際は治療を受けられるよう支援している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行なえるようにしている。看護職員がいない時間は介護職員の記録を基に確実な連携を行なっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供している。また、家族とも情報交換しながら面会に行くなど退院時の相談に応じるようにしている。本人の状況に応じて寝具や必要器具の調整をいしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況の変化があることに、家族や本人の思いに注意し支援している。		重度化、終末期に対するマニュアルや意思確認書等を作成していきたい。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合う際利用者が安心して終末期を過ごして頂けるように取り組んでいる。また、医療機関と密に連携を図り、急変時、すぐに対応して頂けるようにしている。		マニュアルを作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにしている。</p>		<p>これまでの生活環境支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けていきたい。</p>
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会で職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわりの中で利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。また、尊厳ある生活を支援していくために、勉強会を行っている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、利用者一人ひとりが自分で決めるようにしている。食事会では利用者の意見を聞き、メニューを決めている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせ支援をし、日頃からもおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考え、本人の気持ちに添った支援を心掛けている。自己決定の出来る利用者に関しては、要望があれば本人の望む店にいけるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声を掛けながら盛り付け、配膳、片付け、食器洗い・拭きをしている。職員も一緒に食事を摂っている。利用者が作った野菜を使い調理している。利用者に食べたいものを聞き、一緒に料理を作っている。		本人の希望があれば外食等、取り入れていきたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を理解し、本人に好きなものを提供している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合った排泄パターン、状況を確認しながら、失敗なくトイレに排泄出来るようにしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯に関係なく入浴出来るようにしている。入浴拒否のある方に対しては声掛けに工夫して入って頂いている。入浴中は、昔の話など話を聞き、職員とコミュニケーションを取りながら入浴して頂いている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休憩については、その人の状況に応じて休んでもらっている。夜間、眠れなく起きている人には温かい飲み物を勧めたりテレビや落ち着くまで話をしながら眠れるまで様子を見ている。		
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気分転換にドライブや買い物に時々出掛けている。農作業、草刈り、裁縫、編み物などで職員とのコミュニケーションをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり事業所が管理している利用者でも、外出時や喫茶店のお金などは、自分で払って頂けるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分、希望に応じて季節を肌で感じてもらい、身心の活性につながるよう散歩、買い物あるいはドライブ等に出かける。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の生まれ育った所へドライブに行っている。		計画を立て、家族への協力を促がして行きたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡がきた時は、本人に代わり話していただいている。		御家族より荷物や手紙等が届きましたら、ハガキや手紙等で返事を送るように努めていきたい。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等がいつでも来て頂けるよう時間は決めておらずいつでも面会できるよう配慮している。家族等から、電話があった場合は家族と本人の橋渡しをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアル見直し、勉強会を実施している。		職員同士で拘束になっていないか、カンファレンス時、確認し合っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず利用者の自由な暮らしを支援している。利用者が外出しそうな様子を見かけたら、声を掛けて一緒に出かけている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録や事務作業を行いさりげなく全員の状況を把握する。夜間は数時間後とに利用者の様子を確認して起きた時本人の動きに合わせた対応が出来る場所にいる。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、利用者の状況によって注意を促していく等、個別に対応している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成し、事故原因についてと今後の予防対策について職員間で検討し、検討内容を御家族に報告している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間時の緊急対応についてマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		応急手当の勉強会を実施し、体験、体得、習得をしていきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしている事を家族に見てもらい説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時はバイタル測定を行い、記録に残している。		状況により医療受診につなげている。
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。体調変化により薬の内容が変わると、職員は薬の目的・用法を理解把握するようにしている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、家事活動など身体を動かす機会を適度に設け、自然排便できるように取り組んでいる。なるべく下剤の服用をやめ、センナ茶を飲用して頂き、排便を促している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮し、利用者個人の力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に管理栄養士のアドバイスを貰っている。水分摂取状況をチェック表に記載し、職員が情報を共有している。食事が取れなくなった利用者に関しては専門職や医師に相談し、食事を工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいに努めている。利用者及び家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用している。また、園内清掃時、消毒するよう努めている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つよう職員で取り決めて、掃除や消毒を実施している。冷蔵庫や冷凍この食材の残りの点検を頻繁に行なっている。		年に数回、専門職に家電や水周りの点検をしてもらうようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える。玄関にベンチを置いて親しみやすくしている。)		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい空間を意識して頂けるような昔ながらの家具や季節の花を飾ったり小物等を設置している。		バリアフリーにしていない理由として、段差があることで立ち上がり動作が楽にでき、機能低下を防ぐ効果があることがあり、今後もけいぞくしていきたい。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子とテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。過ごし場には、畳の空間とソファの空間を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真や使い慣れた日用品を持って来て頂き、利用者の居心地のよさに配慮している。本人の状況に応じて環境整備をしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>一定の時間帯に換気を行なっている。外気との温度差がある時は温度計と利用者の様子を見て調整している。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭がでないようにしている。汚れた衣類等は、そのままにせず直に洗うようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮している</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>状況にあわせて環境整備に努めている状態が変わり新たに混乱や失敗が生じた場合は、都度職員一同で話し合い利用者の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関脇にプランター等を使用し花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるよう環境作りしている。玄関先にベンチを置き、利用者が涼んだり出来るよう工夫している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・スタッフと共に食事の支度や掃除、洗濯などを行い、住み慣れた暮らしに近い生活を送る事が出来ます。安心して暮らせるようお年寄りの心に寄り添い、一緒に過ごすことを大切にしています。又 大正ロマン漂う格子や和風のぬくもりが、心穏やかな生活を演出できるよう、環境にも配慮しています。